

二〇三二年六月二日

万緑が囲む山湖の面真青	はく子
蝌蚪の田の水面をよぎる電車影	よう子
噴水の中に腕白仁王立ち	ぽんこ
立話横すり抜けて夏燕	こすもす
風に馳す沖の白帆や青岬	わかば
風鈴に風筋を聞く夕まぐれ	素 秀
下闇に黒のネクタイ緩めをり	かかし
三世帯揃ひの家紋田植笠	かかし
片向けし日傘にしぶき保津下り	宏 虎
番傘の細手に重し走り梅雨	素 秀
産湯井の甕に水輪や青時雨	なつき
風生まるたびにうねりし蓮青葉	ぽんこ
染むることやめて幾年洗ひ髪	む べ
塔頭の屋根光り合ふ薫風裡	なつき

毎週句会秀句・みのる選・二〇三二年六月二日